

2020 年 12 月 22 日

株式会社パスコ

(報道資料)

国土交通省が取り組む「まちづくりの DX」において 3D 都市モデルの整備を支援 ～ オープン化される 3D 都市モデルの利活用の推進 ～

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：島村秀樹、以下：パスコ）は、変化する街の情報を空間情報として捉え、スマートシティ・スーパーシティの実現に有益なデジタルツインの構築を推進しており、国土交通省が取り組む「まちづくりの DX」事業に参画しています。

本日、国土交通省が事業の成果を発信するウェブサイトをオープンし、東京 23 区の 3D 都市モデルを先行公開いたしました。

パスコは、人工衛星、航空機、ドローン、車両、船舶など、様々なプラットフォームから現実世界（フィジカル空間）の都市を詳細に捉え、仮想空間（サイバー空間）に再現する空間情報技術とその知見をもとに、全国約 50 都市の 3D 都市モデルの整備に参画し「まちづくりの DX」に関する取り組みを支援します。

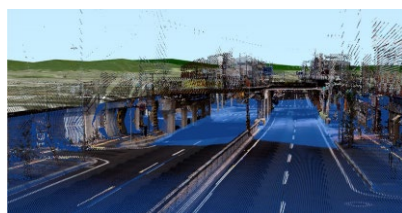
■ 3D 都市モデルの利活用の推進

パスコは、これまで 3 次元空間情報を用いて、エリアセキュリティ、道路の浸水リスク、バリアフリーナビ、自動運転用基盤地図整備、都市環境、景観分析などのサービスを、官公庁や地方公共団体、民間企業に提供してきました。今回の事業でオープン化される 3D 都市モデルは、都市の防災・減災対策、都市施設の最適化、インフラ老朽化対策などの様々な対策にも有効に活用できます。パスコは、3D 都市モデル整備の支援とともに、その利活用の推進を図っていきます。

(3 次元空間情報の利活用例)



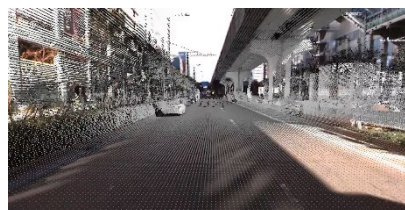
エリアセキュリティ



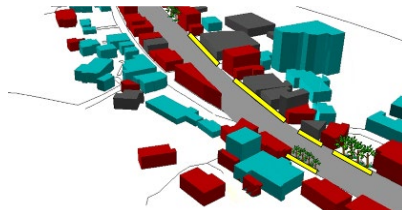
アンダーパスの浸水シミュレーション



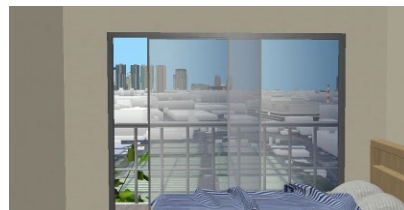
バリアフリーナビ



自動運転用基盤地図整備



道路の騒音解析



眺望シミュレーション

■ Map the New World. ～Project “PLATEAU” のティザーサイトをオープンします～

国土交通省では、本日より、プロジェクトの成果を情報発信していくためのティザー版ウェブサイトを公開し、東京 23 区全域を網羅した 3D 都市モデルなどを先行公開しています。ウェブサイトでは、プロジェクトの進捗プロセスを継続的に発信（ウェブサイトや SNS を通じて 3D 都市モデルやそのユースケースを順次公開）していくと同時に、3D 都市モデルをはじめとする各種データをオープンデータ化し、誰もが活用できるようになります。

[Project “PLATEAU”]

ウェブサイト：www.mlit.go.jp/plateau/、Twitter：@ProjectPlateau

[国土交通省プレスリリース]

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000068.html

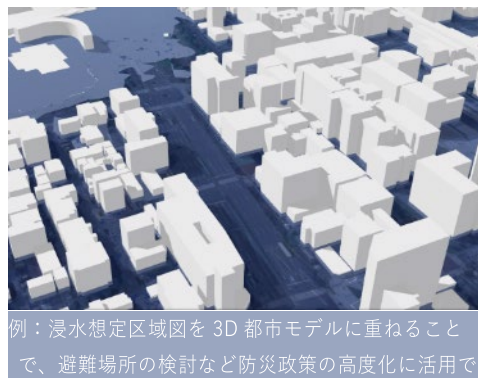


■ Project “PLATEAU(プラトール)” とは？

3D 都市モデルとは、都市空間に存在する建物や街路といったオブジェクトに名称や用途、建設年といった都市活動情報を付与することで、都市空間そのものを再現する 3D 都市空間情報プラットフォームです。

様々な都市活動データが 3D 都市モデルに統合され、フィジカル空間とサイバー空間の高度な融合が実現します。これにより、都市計画立案の高度化や、都市活動のシミュレーション、分析等が可能となります。

国土交通省では、現在、Project “PLATEAU(プラトール)” として、全国約 50 都市の 3D 都市モデルの整備と、これを活用した都市計画・まちづくり、防災、都市サービス創出等の実現を目指す「まちづくりの DX」の取組を推進しています。



■本件に関するお問い合わせ先

株式会社パスコ

(報道機関) 広報部

<https://www.pasco.co.jp/>

TEL：03-6412-2800

プレスリリースの内容は発表時のものです